

## 5 委員会の実施

検討委員は、表 5.1の学識経験者に依頼した。

表 5.1 検討委員一覧（敬称略：順不同）

氏名	まつえけいご 松英恵吾
所属	宇都宮大学 農学部森林科学科 准教授
専門分野	森林計画学・森林計測学・森林リモートセンシング・森林GIS

氏名	にしぞのともひろ 西園朋広
所属	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林管理研究領域 チーム長（資源動態担当）
専門分野	森林計画学、森林計測学、森林情報の計測評価及び持続的利用

氏名	みつだやすし 光田 靖
所属	宮崎大学農学部 森林緑地環境科学科 教授
専門分野	森林計画学、森林経理学

検討委員会は下記の日時で開催した。

1. 開催日時 2024年2月9日 10時～12時
2. 開催場所 WEB会議

### 議事概要

	委員	主な意見等
業務概要・現行の収穫予想表の整理・分析に係る報告		
	西園	グルーピングの際に、収穫予想表はグルーピングによって成長が異なるということを前提に実施していると思うが、品種についても留意が必要である。
	松英	現行の収穫予想表の適用範囲と気候条件によってクラスタリングされた結果の比較も現行収穫予想表の評価という意味では実施しておくとは有益である。
	光田	九州森林管理局の場合、品種によって樹高成長パターンが大きく異なる場合があるため、九州森林管理局の植栽品種は把握すべき。
現実林分のデータ把握に係る報告		
	松英	現行の収穫予想表は、当時のクロスセクションデータであることを前提に現状の林分と比較すべき。
	光田	収穫調査の内、樹高の測定方法の「目測」は除くべき。
成長予測モデルの検討・整備に係る報告		
	西園	収穫調査は、航空レーザ計測と異なり、下層木を含めた調査であるため、取扱いには注意が必要。
	西園	平均胸高直径に対する ha 当たり本数のグラフについて、異常に本数が少ない結果があり、疑問に感じた。
	西園	樹高に対する平均胸高直径のグラフについて、一部盛り上がるような結果があるが、推定式によるものと考えられる。
	松英	クロスセクションデータや航空レーザ計測と地上調査の違い、場所や時代による密度管理の方法の違い等によって、林齢に対する ha 当たり本数のグラフのように当てはまりが良くない結果になると考えられる。
	光田	特に本数については、一様ではないため、20m メッシュではなく、林分ごとの解析方法も検討してはいかがか。
	西園	全体的に若齢時のサイズの推定が過大の傾向がある。8～10 齢級のサンプル数が多いため、そこにフィッティングするように回帰されているのではないか。回帰方法を検討すべき。
	光田	昨年同様、ガイドカーブ作成時に齢級別の中央値のデータを使用してカーブフィッティングさせる方法を検討してはいかがか。

	委員	主な意見等
今後の課題について		
	松英	現状の解析方法は地上プロット調査を基としたフローのため、航空レーザ計測データを使用することを前提とした収穫予想表の作成方法を検討する必要がある。
	松英	航空レーザ計測データを使用する際に、使用するデータ（メッシュやポイント等）について検討が必要である。
	西園	現行の収穫予想表には、副林木の情報もあるが、今後の作成フローにおいて副林木の取扱いも検討が必要である。
	西園	収穫調査の調査方法を、後にデータが使用できるような調査方法（測高器を使用する等）にすることが重要。
	光田	航空レーザ計測では、地上調査では対象にならない地点も含めた面的なデータが取得出来る一方、解析の際にデータ量が過大になる可能性があるため、データのまとめ方や更なるフィルタリング等も検討してはいかがか。
	光田	システム収穫予想表のようなものを作る際には、併せて森林簿の更新方法も検討する必要がある。
	西園	全国的なグルーピングを行う際に、これを管理局ごとに実施し、隣接する管理局と結合した場合、隣接部で異なる区分になる可能性があるため、注意が必要である。